

not used

D. 910 NO 102

露 文 同 盟 密 約

千八百九十六年五月

(本密約ハ一八九六年五月露帝威冠式ニ參列セル李鴻章ガ「プリンス、ロバノフ」ト號被待候工ニ於テ締結シタルモノニシテ密約ノ有效期間ヲ經タル後李鴻章ノ息ニシテ駐英支那公使李經遠ガ倫敦ノ「デイリー・テレグラフ」ニ於テ發表セルモノナリ

詳細ハ歐文ノ註ヲ參照スベシ

第一條 東方亞細亞ニ於ケル露西亞領土ニ對スルト又ハ支那國若ハ朝鮮國ニ對スルトヲ問ハズ日本國ノ企ツル一切ノ侵略ハ必然的ニ本條約ノ即時適用ヲ招致スルモノト之ヲ認ム
右ノ場合兩締約國ハ其ノ當時兩締約國ガ使用シ得ル一切ノ艦海軍ヲ以テ相互ニ支持シ且各締約國ノ兵力ニ對スル糧食供給ノ爲成ルヘク多クノ援助ヲ爲スコトヲ約ス

第二條 兩締約國ガ共同動作ヲ執ルニ至リタルトキハ他方國ノ同意ヲ得ルニ非レバ敵國ト平和條約ヲ單獨ニ締結スルコトヲ得サルモノトス
第三條 軍事動作中ハ支那國一切ノ港ハ必要アル場合ニ於テ露西亞國軍艦ニ開放セララルベク露西亞國軍艦ハ右港ニ於テ其ノ必要トスル一切ノ

援助ヲ支那國官憲ヨリ受クルヘシ

第四條 支那國政府ハ露西亞國國軍カ侵略セララルルノ怖アル地點ニ接到セルコトヲ容易ナラシメ且其ノ抵抗手段ヲ確保スル爲支那國「アムール」(黒龍江)省及「キリン」(吉甯)省ヲ橫斷シテ滿洲新德ノ方向ニ一條ノ鐵道線ヲ建設スルコトニ同意ス該鐵道ノ露西亞國鐵道トノ聯絡ハ支那國領土又ハ支那國皇帝陛下ノ主權ヲ侵害スルノ口實ト爲ラサルヘシ該鐵道ノ敷地及經營ハ露支銀行ニ之ヲ許與シ且之カ爲締結セララルル契約ノ條款ハ露支兩國駐劄支那國公使及露支銀行間ニ於テ正式ニ商議セララルヘシ

第五條 戰時ニ於テハ第一條所定ノ通り露西亞國ハ其ノ軍隊ノ輸送及軍除ニ對スル糧食支給ノ爲第四條所定ノ鐵道ヲ自由ニ使用スルコトヲ得ヘシ平時ニ於テハ露西亞國ハ其ノ軍隊及軍需品ノ運送爲同二ノ權利ヲ有ス但シ途中停車ハ輸送事務ノ必要ヲ理由トスル場合ノ外之ヲ許サス

第六條 本條約ハ第四條所定ノ契約ヲ支那國帝國カ承認シタル日ヨリ實施セララルヘク右實施ノ日ヨリ十五年間有效トス右期間終了前六月ニ於テ兩締約國ハ本條約ノ更改ニ關シ商議スヘシ